
空下幻想談

荒也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空下幻想談

【Nコード】

N7744C

【作者名】

荒也

【あらすじ】

置き去りにされた夢の跡は何処へむかうのだろうか？ザックスは夢と誇りをクラウドに諾す。 エアリスは、

「悪いな、クラウド。また一休みだ」
そう言つてオレは担いできた友人を岩陰に下ろす。一瞬そのつんつん頭が揺れてオレを見たような気もしたが、多分気のせいだろう。なんだかんだと強がつてはいたが、結局寂しいのに違いない。
でも、もうすぐ。

もうすぐだつてのによ。

後ろから複数……以上か。足音と車の音、前方からは神羅製の軍用ヘリ。状況もコンディションも最悪

だ。ついでと言つちやなんだが、空模様も見るに耐えない。それでも不思議と手は剣の柄に掛かる。

アンジール、オレはもうどうなつてもいいんだよ。けどさ、こんな終わり方じゃクラウド、あんまりじゃないか。いい奴なんだぜ。

こいつだけでも助けてくれよなと幅広の剣に囁きかけて、額をつける。その間にも目の前には神羅の一般兵どもが走つて集まるが、オレは呑気にアンジールの言葉をなぞりながら、気を落ち着ける。うん、
1stの心構えつて奴？そんなのを呟いて前を見据えた。

時々、ふとそう、想うことがある。ううん。いつも、常にそう、想つてる人がいる。

変なひと、だつて、屋根突き破つて落ちてきたの。おかしいよね。

「おお、やっぱりここに居た！」

後ろから、声。振り返るとたつた今まで考えていた人がそこで満面

の笑みを湛えている。それをみると、
つられてわたしの顔もほころんだ。さっきまでタークスに追われて
たのは、内緒。嫌な気分も吹き飛ん
だから、もうどうでもいい。

彼の空けた穴から降る光が、丁度良く教会の祭壇の前　　白や黄色
の、花にそそぐ。考えたこと無かつ
たけど、この景色ってなかなか綺麗だ。ザックスが言うみたい
に、彼の故郷の花はきつと日の光を一杯
に浴びて、もつと綺麗に違いない。

「なあに？」

「うん、ほら。暇だったからさ」

そう言っただけで照れたように笑う。

「ふーん。暇じゃなかったら、来ないんだ」

「いや来る。それとこれとは全く全然別」

いやにはつきりした口調で即答する彼が、なんだかおかしい。つん
つんした黒髪が、何時の間にかわた
しの横で日に当たって輝いていた。

ザックスはよくここに来て、空を見上げる。時には、わたしより早
く来てしまっただけで、待っている間ずっ

とそうしてぼけっとしていることがある。わたしは怖くてそんなこ
とできないけど、彼にとっただけで唯一
故郷とつながっているのが空なのだそうだ。いつも同じ色をして、
いつも見上げれば故郷の情景が目
に浮かぶ。そう言うのって、なんだか素敵だと思う。わたしが言う
とやっぱり照れ笑いしながらエアリ
スも見てみるよと言うのだ。

「今日は、なに？」

「何だと思う？」

「なに？」

「エアリス……実はオレ」

言うなり、真剣な顔が迫ってくる。かつこいい顔してるから思わず
どきどきしながらも、わたしは身を
引いた。もしかしてなにかここに来れなくなるとか、そういう話な
のかな……。

不安が胸を締めた、直後だった。

「会いたかっただけ！」

嬉しさ半分、悔しさ半分。にっこり笑った彼の頬をわたしが殴り飛
ばしたのは、言うまでも無いと思う。

派手にこけたザックスの頬に赤くあとが付いてるのを見たら、ちょ
つと後悔したけど。首を傾げて「も

しもーし」と声を掛けると、彼はむっと顔をしかめて起き上がった。
板が所々剥げて、土なんかで散らかり放題の床は、本来の教会の神
聖さを全く失っていたけど、これは

これでおつなものだ。ザックスはズボンの土を払いながらそんな事
を言っただけ。もう何を信仰してい

たとも知れない、前時代的な遺産。わたしのお気に入りの場所だっ
たここは、何時の間にか大切な場所

になっていた。お花、育つし、何より彼に会えるから。

髪型を変えて顔が良く見えるようになったザックスは、あれ以来決
してわたしに泣き顔を見せないから、

とても心配ではあるけれど。

「似合ってる、と思うよ」

「へ？何が？」

「髪」

「今更じゃね？やっと見慣れてくれた？」
うん。

笑み。自然と零れた。嬉しいんだと思う、彼が、笑うと。ザックス
もまた、そう思ってくれていたら、
きつとわたしいつ死んだって良い。

「戦争、嫌いだけど、ザックスの夢がかなえば良いと、思うよ」

彼の顔が、少しだけ強張った。あの日何があつたのか彼は話してくれないけど、なんとなく伝わる、大

切なものをつ失つた痛み。お母さんが死んだときのわたしの痛みによく似ていた。

一杯泣いた、だから多分、強くなれるんだ。

あえて、だから、わたしはもう一度言つた。

「夢。叶うと、いいね」

ザックスは少しだけ躊躇い、また、あの眩しい笑顔を作る。

「ああ」

ミッドガル、お花で一杯にして、お財布、お金で一杯にして。いつか一緒にプレートの上に買い物に行

くのだ。それがわたしのささやかな夢。可愛い服を買って彼の腕に抱きついて、いつか一緒に空を見上

げられるくらい、確固として強くなつて。

今はまだ、あの穴さえまともに見上げられないけれど。

「ね、もしも、だよ？」

「うん？」

一歩、二歩。彼を置き去りにして歩を進める。花の横を通り過ぎながら。

「もし、ザックス、英雄になって、そのときわたしがまだここに居たら」

振り返る。

日の光を一杯に浴びて。ザックスの目にはいま、どんな風にわたしがうつつてるんだろう。光の道を隔

てて、彼の困惑した表情が見えた。

「そのときは、ここからわたし、連れ出してくれる？」

間抜け面、と言うのだろうか。一瞬そんな表情を覗かせた彼は、にっと笑つてわたしに手を差し出した。

「何処行きたい？エアリス」

ささやかな願いは、23個。でも今は、本当に1個だけなの。

「ささやかな願いは23個。だけどきつとザックスは覚えられないから、一つに纏めます」

彼女の声が、隣で聞こえた気がした。……わかってるよ。クラウドだけなんてかっこいいこと、ほんとは考えてねえんだ。死ぬのも覚悟して戦っているこの体は、それでも膝を折ろうとはしない。それってさ、多分まだ生きていたいからなんだ。最後の手紙ってどういう意味だ？まだ聞いてない。

血で濡れた柄を握りなおす。

4年って何だよ？早く行かなくちゃ。

渾身の力で重くなったバスターソードを振り上げ。

約束を果たしに、エアリスのそこへ。

もっと、一緒に居たいです

オレもだよ畜生ッ！

振り下ろした剣は地面に刺さり、抜こうとして時間をかける腕に、足に、背中に銃弾の雨が降る。まったく用意がいいことだ。

いつかはそう、オレもゼフィロスたちに混じって祝杯を上げて、堂々とエアリスを迎えに行く予定だったんだ。ことごとく狂ったのはいつからだ？なあ、クラウド。お前だってこんなこと望んだはず無い。

力なく仰向けに倒れていたオレは、ふと岩陰においてきた親友の名を呼んでみようとす。せめてお前

が会ってくれよ。

銃声が続くが、痛みなんてとつくに無いしこんなぐだぐだ考えるのはオレらしくない。だから。だから。目を閉じる。

ちよつとだけ我侬を言えば、せめてクラウドだけは生き残って、んで、まだオレの息があるうちに剣を

託させて欲しい。アンジール、こんなところであんたの誇りと夢、消すわけにいかないから。

この剣と一緒に、エアリスとの約束もあいつが受け取ってくれるかな、なんて、多分思ってるんだ。

多分。な。

通り過ぎる人波の中に彼の姿を見た気がした。

ぶつかって倒れたわたしを助け起こしてくれたのは全然別の人だった。彼はむつと顔をしかめていたが、

籠の中にある花を見て、珍しいなと呟いた。今となってはもう、これも夢のあとになってしまったけど。

「お兄さん、買わない？ たったの1ギルよ」

彼は少し考えてから、相変わらずのしかめっ面で頷いた。本当は、知っていた。

それを見たわたしの胸に、ずっしりと重かった何かが消えていく感覚が、した。

本当は、知ってたの。

あのひとは、抱いてた大志と一緒に飛んでいったんだってこと。わたしの手には夢のあと。教会には二度と直らない花売りワゴン。走り去った彼の背負っているそれを見て、ああ、あんなとこに居たのかと、納得した自分に気がついて

おかしくなった。約束、果たしに来てくれた。

初めて見た空は、何処までも青かった。初めて出来た仲間といっし
よに、わたしはミッドガルをあとに
して。

(後書き)

ザクエア的なものがかけたので個人的に満足しています(え

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7744c/>

空下幻想談

2010年10月21日23時37分発行